

平成30年度公立高等学校みやぎ学力状況調査の結果について

1 目的	生徒の学力状況と学習、生活、「志教育」に関する意識等について調査分析し、各学校における学習指導の取組、本県の学力向上施策の改善に役立てる。
2 調査項目	教科に関する調査（国語、数学、英語）： 2学年 質問紙調査： 1・2学年
3 調査対象	公立（県立、仙台市立、石巻市立）高校1年生 14,418人、2年生 14,499人
4 実施期間	平成30年7月2日（月）～7月9日（月）

※（ ）内は前年度の正答率

5 学力状況調査結果の主な特徴（2学年）		共通問題正答率
国語	<p>○言語に関する基礎的・基本的な知識の定着が不十分である。また、まとまりのある文章を読む際、文言を吟味し、内容を的確に読み取る力が不足している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語事項では、日本語の適切な表現、敬語、文法に関する知識の定着はある程度見られるものの、日常生活で触れる機会が少ない語句の読み書き、ことわざ・慣用句についての理解は不十分である。 現代文では、文章の内容や論理の展開を的確に捉える力、表現に基づいて心情を把握する力に、古典では、基本的な語句や文法を踏まえ、叙述に即して内容を的確に読み取る力に課題が見られる。 	56.0 (49.6)
数学	<p>○基礎的・基本的な知識の定着度が二極化傾向にある。また、必要な情報を複数組み合わせる問題への対応力に課題があり、思考の過程を整理して問題に取り組む力の育成が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 整式の計算や分母の有理化、二次方程式、二次不等式の解法については、一定の定着が見られる。 データの分析について基本的用語の意味や定義の理解が不十分である。また、グラフや問題文から必要な条件を読み取ることや、公式や定理を適切に活用して立式する力に課題が見られる。 	41.7 (48.6)
英語	<p>○基礎的・基本的な問題の正答率は上昇しているものの、その定着度は二極化している。また、まとまった量の英文を読み取り、情報を整理し概要や要点を捉える力に課題が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> リスニング問題において、基本的な表現を聞き取り、その内容を理解することには定着が見られる。 資料読み取りや長文問題において、時間内で情報を整理したり概要や要点を捉えたりする力に課題が見られる。 	47.3 (44.1)

6 意識調査結果の主な特徴（1学年・2学年）	
学習	<p>○平日に1日2時間以上学習する生徒の割合は、1学年で18%、2学年で14%程度である。</p> <p>○学習目標の提示や振り返りが行われている授業ほど、生徒の授業理解度が高い傾向にある。</p> <p>○家庭学習での悩みとして「集中できない」と回答した割合が最も多く、そのうちの約35%が平日最も時間をかけていることとして、スマートフォン等でのゲームやインターネットを挙げている。</p>
生活	<p>○生活習慣や体調管理について、75～85%程度の生徒が安定的な生活を送っている。</p> <p>○1学年では80%、2学年では70%程度の生徒が、学校生活に充実感や満足感を感じている。</p> <p>○集中して勉強できていると回答した生徒は、1学年で60%、2学年で55%程度である。</p>
志教育	<p>○「志教育」の3つの視点に関する意識については、概ね良好な状況である。</p> <p>○「自分の個性や適性が分かっている」について、当てはまらないと回答した割合がやや増加した。</p> <p>○90%程度の生徒が、自分の役割に責任を持って行動していると回答した。</p>

7 学力向上に向けた今後の取組
<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ○家庭学習時間の確保 ○「志教育」の充実 ○生徒自身の自己教育力を高める取組 ○家庭と連携した生活習慣の改善への取組